

事務事業評価シート 平成 29 年度事後評価・決算

平成 31 年 2 月 21 日時点

事務事業名			コード	37540	小学校図書館司書配置事業	予算科目	会計	款	項	目	所管課	学校教育課	担当班	指導班
基本施策			11		学校教育の充実	根拠法令	・改正学校図書館法(H26.6.27)ほか	10	2	2				
施策の展開			21		教育支援体制の充実	戦略事業	114 学校図書館司書配置事業							
施策の展開						戦略事業								

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない	
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 25 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	●「学校図書館司書の配置」→学校教育の教育内容の充実を目的に、学校図書館司書を各小学校に配置する。学校図書館の環境を整え、市内小学校児童が図書に触れ合う機会を充実させる。 ●平成27年度からは毎週1日各校に司書が巡回。 【学校図書館司書の主な業務】学校図書館の環境整備(掲示物の作成、季節に合わせた書籍コーナーの設置、図書室への関心を高める仕組み[図書室外含む]、図書だよりの作成等)、蔵書管理、新書購入時の助言、図書廃棄時の助言、児童に対する図書貸し借り業務、授業の中で扱う書籍の収集、準備(市立図書館との連絡・調整含む)、児童に対する本のアドバイス・レファレンス、読み聞かせ、ブックトーク(数冊の本を同時紹介)	
③事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④事務事業に関する課題・環境の変化	⑤事務事業に対する住民からの意見等
国では、平成24年度から学校司書の配置が進むよう、単年度約150億円の地方財政措置(1週当たり30時間の職員をおおむね2校に一人配置することが可能な規模の措置)をとった。それをきっかけに、旭市でも平成24年度に募集をし、平成25年度から3人体制で開始した。	平成26年6月27日に、学校図書館の職務に専ら従事する職員を「学校司書」と位置付けて各学校に配置するよう求めた「学校図書館法の一部を改正する法律」が公布され、平成27年4月1日から施行された。これにより、「学校司書」が初めて法令に位置付けられた。	児童から「図書館司書さんと本のことを話せてよかった。もっと学校に来てほしい。」という意見があった。教職員からは、学校図書館司書配置について、「効果がある。」という意見があった(100%)。また「巡回日数を増やしてほしい。巡回日(曜日)を固定化してほしい。」といった要望があった。

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(29年度の決算)		単位:千円
1. 労災保険料	975	学校図書館司書3名分
2. 臨時雇賃金	6,286	学校図書館司書3名分の賃金
3. 普通旅費	20	千葉県教委主催の研修への参加
4. 消耗品費	10	USBメモリ等
② 特定財源の内訳(29年度の決算)		単位:千円
1. 国庫支出金	0	
2. 都道府県支出金	0	
3. 地方債	0	
4. その他	0	

		単位	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(予算)
事業費	1. 労災保険料	千円	407	875	943	975	1,139
	2. 臨時雇賃金	千円	4,192	5,900	6,000	6,286	6,963
	3. 普通旅費	千円	5	7	25	20	14
	4. 消耗品費	千円	7		0	10	15
	事業費計(A)	千円	4,611	6,783	6,968	7,291	8,131
財源	1. 国庫支出金	千円					
	2. 都道府県支出金	千円					
	3. 地方債	千円					
	4. その他	千円					
	5. 一般財源	千円	4,611	6,783	6,968	7,291	8,131

前年度増減理由	図書館司書1名の時給が50円上がったため。
---------	-----------------------

従事職員数	常時	1人	最大	2人	×	12日	=	延べ	24人
-------	----	----	----	----	---	-----	---	----	-----

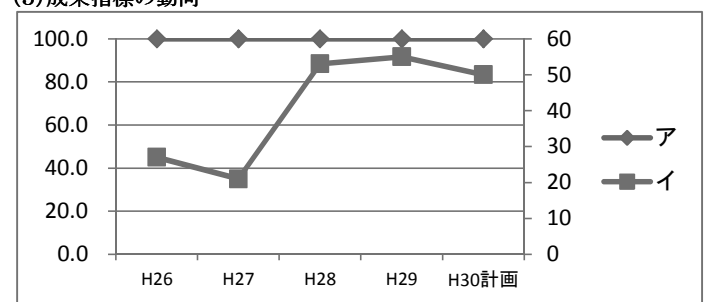
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	⇒	③ 活動指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	29年度実績(29年度に行った主な活動) 学校図書館司書を3名採用し、市内小学校15校を巡回。学校図書館の環境整備と児童の読書指導を実施。配置に対するアンケート調査を実施。		ア 学校図書館司書一人の担当校数	校	7	5	5	5	5
			イ 1校当たりの年間巡回回数	日	27	39	39	39	39
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	⇒	④ 成果指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	対象・学校図書館施設、図書 対象・市内小学校児童 意図・学校図書館施設が利用しやすくなる。掲示物等を作成し、図書が探しやすくなることで、児童の図書の貸借がスムーズになる。 対象・学校図書館施設、図書 対象・市内小学校児童 意図・読み聞かせや読書の授業の補助等を行い、学校図書館司書と児童が触れ合いの時間が増えることで、市内小学校児童等が、読書の楽しさや大切さを理解する		ア 年度末アンケート調査での肯定的評価の割合(%)	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
			イ 1校当たりの読み聞かせの時間(年間)	時間	27	21	53	55	50

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果			② コスト削減優先度評価結果		
施策貢献度	大きい	成果向上余地	評価結果	①	コスト比率
		かなりある			下位 1/3
	普通	ある程度ある		②	中位 1/3
	小さい	ほとんどない		③	上位 1/3
				④⑤	
				⑥	
				⑦⑧	
				⑨	

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況	② 成果の状況	③ 今年度取組事項(30年度に取り組む主な事項について記載)	今後の方向性
	☐ 完了 ☒ 順調 ☐ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難	成果指標ア 成果指標イ 成果指標のタイプ 数値増=成果向上 ☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下 数値増=成果向上 ☒ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下	時期 31年3月(8月除く)まで 内容 本の読み聞かせの回数を増やす。担任と学校図書館司書との連携を図り、チームによる授業を行う。	☒ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 現状維持 ☐ 廃止・休止 ☐ 見直し ☐ その他() 平成30年度～ 随時
【コメント】(停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)				
【コメント】(低下の場合、その理由)				
比較	25年度 26年度	26年度 27年度	27年度 28年度	28年度 29年度
ア	5.0	0.0	0.0	0.0
イ	7	△6	32	2
				△5